



正門横にある鋼管稲荷。鳥居は製造所でつくられた鋼管で組まれている

1935年、東京都板橋区に設立された東京製造所は、その地の利を活かして高級小径シームレス鋼管の製造拠点として歩んできた。隣接する新河岸川は荒川から引き込まれた運河で、君津製鉄所の鋼管材料(丸ビレット)を船で運び込んでいる。

新日鉄の

**ECO**

原油・海水中での耐食性が高い **マリロイ<sup>®</sup> 鋼管**

**Products**

マリロイ鋼管は、これまでの多くの採用実績があった原油用の荷油管に加え、海水用のバラスト管にも本格採用されることが決まりました。バラスト管は鉱石運搬船、自動車運搬船などさまざまな船種で使用されるため、マリロイ鋼管の需要の拡大が期待できます。

原油タンカーにおいて原油や海水の積み降ろしに使用される鋼管には、通常、塗装した炭素鋼鋼管が使用されています。これに対し、新日鉄の「マリロイ<sup>®</sup> 鋼管」はクロムを添加して耐食性を改善した鋼管で、内面無塗装で使用可能です。そのため建造時の塗装工程の省略、工期の短縮、航海後の補修省略(回数低減)などコストを大幅に削減できます。

タンカーのバラスト管として15年経過後の鋼管内面(錆落し後)。深い腐食は見られず耐食性の高さがわかる

